

基肄城築造1350年

基肄城を知る ⑬

—きやまのお潮井取り—



基肄城の城壁の一部である水門跡が、お潮井取りの場になっていることをご存じでしょうか。お潮井とは、海・川の砂や水を清め、災いを除くといわれています。

水門跡がお潮井場と分かるもの一つに、追分石（道しるべ）があります。丸林集落から水門跡方面、キャンプ場方面への別れ道である三差路に建っている石碑面には、「右はるだ 左筒の志をひ むさし」と彫られています。これは、「右に行く」と原田、左に行く筒の潮井、その先は武蔵（今の筑紫野市の武蔵寺辺り）に通じている」という意味です。城内から水門へ流れている川が筒川なので、「筒の志をひ」は、水門跡を指すと思われ、古くからお潮井取りの場であったことがうかがえます。

お潮井取りと聞くと、ニュー・スなどでよく目にする、博多山笠のお潮井取りの風景が思い浮かぶのではないのでしょうか。締込み姿の男衆が、箱崎浜でお潮井（真砂）を升やてぼに入れて持ち帰り、家を出入りするときに身に振りかけて心身を清めます。

町にも、祭りのときや1年の節目節目にお潮井を取る行事があります。園部くんちでは、行列の先頭で神水桶を持った2人がお潮井を撒き、道を清めます（写真1）。その神水は、現在、宝満宮境内の井戸水ですが、以前はどこかのお潮井場から汲んでいたのではないかとわれています。荒穂神社の横を流れる川は潮井川と呼ばれ、お潮井取りの場があり、本殿横のお潮井台には砂が奉納されています（写真2）。

町内には、1年中お潮井を取る組合もあります。丸林では、「おしおい参り」が続けられており、水を入れるお潮井たご（小さな桶・写真3）が、家から家へ順に送り渡されています。それが手元に届くと、朝早く水門跡でお潮井を汲み、1.5km下った所にある城戸の老松宮へ参ります。家に戻って玄関や家の周りに撒き、敷地を清めて家内安全を願います。そして、たごは



写真1 園部くんちの神水撒き

次の家へ回していきます。小原の隼鷹天神でも、水門にお潮井を取りに行く神事が行われています。7月の願成就の際、4か所の地名を書いた小さな紙をお盆に載せ、その上で数珠の房を動かし、房に付いてきた紙の場所がお潮井取りの場となる神事です。その場所は、「久留米の高良大社」、「太宰府天満宮」、「丸林の住吉神社（水門）」、「隼鷹天神（隼鷹天神の場合は、お百度を踏む）」です。昔は組内で揃ってお潮井取りに行っていたようですが、現在は決められた日にそれぞれ向かい、お潮井を持って隼鷹天神に集まります。境内にお潮井を撒いた後は、社殿に上がり談話をします。



写真2 荒穂神社のお潮井台

子どもから年配の方まで幅広い世代が集まり、持ち寄った菓子や漬け物を食べながらお茶を楽しむ光景は良いものです。1350年前、水門跡は城内の水を排水するために造られたものでしたが、時代を経ていくうちに、暑い夏には涼を取る憩いの場や、古代の歴史を感じる名所となりました。また、住吉宮という水に関係する神様が祀られ、信仰の場やお潮井を取る神聖な場所へと変化し、お潮井を通じて人々をつなぐ役割も果たしているように思います。

※問合せ先

教育学習課 ふるさと歴史係
電話92-2200



写真3 丸林のお潮井たごと杉の枝